



安全装備品と消防団活動

石川県白山市消防団

1 はじめに

白山市は石川県の中央部、県都金沢市、野々市市の南西部に位置し、三名山の「白山」から県下最大の流域を誇る手取川を伝い、日本海に至るまでの標高差2,700m余の自然豊かな都市です。

平成17年2月に1市2町5村が合併、新市として誕生し、人口は約11万3,000人、面積は県下最大の755.17km²（県全域の18%を占める）で全体の74%が林野です。

加賀百万石を支えた米どころとしても知られていますが、近年は企業誘致に努めたところ、多くの製造業が立地し、霊峰白山を生かした観光誘客にも注力しています。

2 白山市消防団の紹介

白山市の消防団は、広い市域を管轄することから2団制をとっています。鶴来・白山ろく（河内・吉野谷・鳥越・尾口・白峰の5地域）地域を管轄し、10分団251名で構成する「白山市南消防団」と、松任・美川地域を管轄し、12分団296名で構成する「白山市北消防団」の2団です。

「白山市南消防団」は、市域を占める全林野、白山までを管轄することから、登山客等の捜索活動を行うことがあります。一方の「白山市北消防団」は日本海に面した海岸線を管轄することから、遊泳者等の遭難捜索活動に従事する場合があるなど、地域特性の違いが活動の違いに表れています。



白山市全景



そうした違いがあっても、サラリーマン団員の増加は避けられず、白山市においては約70%の方がサラリーマンです。通勤圏には金沢市や小松・能美市が含まれることから、所属分団管轄内の事業所に勤務する方は少ない状況にあります。

3 安全装備品等助成事業の活用

市町村合併を見据えた装備品の統一化として、活動服の仕様を整えてきましたが、安全装備品については、合併前に各自治体が必要に応じ整えてきたことから、防火衣・防火帽を始めとする装備については、統一化がされていませんでした。

消防団としての一体感、連帯感という見えない絆を個々の団員は強く持っていますが、それをより強くするためには、どうしても統一された装備が欠かせません。そこで、白山市誕生から4年を経過した時期に、さまざまな装備の統一化について協議を行い、消火活動のための防



秋季火災防ぎょ訓練（整列）

火衣・防火帽の整備と、水防活動のための雨具の整備を重点的に行うことに決定しました。

ただ、予算的にもすぐに全団員分を整備するという訳にはまいりませんので、年次計画と大まかな仕様を確認した上で、事業化のための補助メニューを模索していました。そんな時、幸いにも石川県から消防基金の安全装備品整備等助成事業があると聞き、ぜひ活用させていただきたいと思いました。

まず防火衣を最優先に整備することとし、これまで着用していた防火衣の問題点を考慮し、難燃性が高く耐久性に優れ、かつ軽量なアラミド繊維製の防火衣を採用することに決定しました。2消防団22分団に計25台の消防ポンプ自動車があることから、それぞれに3着を配備するための計75着と、2本団8名分の合計83着を計画初年度に整備する計画を策定し申請を行いました。

事業の採択をいただき、所要の手続きを済ませ約3ヶ月後に納品されました。ちょうど新春恒例の出初式を間近に控えていた時期であったことから、出初式においてお披露目することが出来ました。

その後に海浜・山岳搜索活動が相次ぎましたが、購入した防火衣は遠くからの視認性に優れ、軽量であるため防寒着としても活躍しました。実際に着用した消防団員からも好評です。

年間を通じた活動としましては、春季・秋季



秋季火災防ぎょ訓練（放水）

火災予防運動期間中に実施する火災防ぎょ訓練や広報啓発活動、野々市市消防団と協力して行う消防訓練大会での一斉放水などで防火衣が活躍しています。

4 今後の安全確保の取り組み

安全装備品については、まず防火衣・防火帽の整備を優先して、計画的に配備していきたいと思っています。団員全員に行き渡るまでにはまだ

まだ時間がかかりますが、自主財源を確保しつつ、消防基金の安全装備品整備等助成事業のような有用な補助メニューを活用していきたいと思っています。また、ハード面だけでなく、ソフト面としても分団長等との幹部会議を通じて安全管理の徹底を図ることはもちろん、分団単位の打ち合わせなどの際に当市消防団独自に実施している公務災害防止研修を引き続き行いたいと考えています。



保育所での放水訓練